

裏ちば会議 vol.3 ゲストスピーカープロフィール



BundBakery
赤羽根 早苗 氏

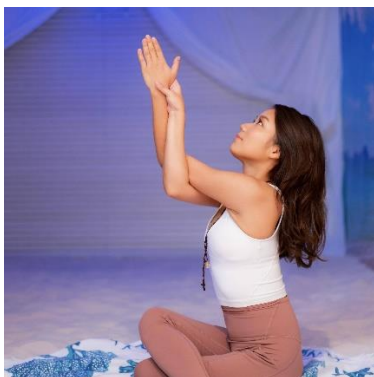
新宿小学校の目の前。緑の屋根が特徴の小さなパン屋さん「BundBakery」には、店内にはころんとかわいらしいパンが並び、何だか温かい空気が流れています。

オーナーシェフを務めるのは、赤羽根早苗さん。長らく、大手のパン工場でキャリアを重ねてきましたが、独立を目指して有名なベーカリーカフェで修行、2019 年秋に、地元の千葉で念願の”自分のお店”を開きました。

工場時代のチームでの仕事にしがらみや難しさを感じて、「何でも自分 1 人で決められる自由な環境」を求めての開業でしたが、体調を崩したことをきっかけにして、周囲の支えがあってこそ仕事が成り立つのだと感じ、以来、仕事への力の入れ具合が変わっていったのだといいます。

そんな彼女のもとには、お料理が得意な人、ケーキ作りが得意な人、黒板にイラストを描くのが得意な人と、不思議と 1 人また 1 人と異なる強みを持つ仲間が集まっており、そんな個性あふれるスタッフと共に BundBakery は育ってきました。実は店名の Bund はドイツ語で「結びつき・絆」という意味。お客さんはもちろんスタッフや取引先との関係性を大事にしながら、日々のパン作りが続いています。

まもなく開店 5 周年。裏ちば会議[vol.3]では、BundBakery 店主の赤羽根早苗さんに、これまでの道のりと今後の展開についてお話をいただきます。



Beach Yoga Lanikai
安枝 清美 氏

ドアを開けると砂浜が広がっているヨガスタジオ「Beach Yoga Lanikai」。代表を務める Kiyomiさんは、アパレル企業に勤める会社員時代にヨガに出会い、その世界を拓けていきました。

10 代の時に、街を歩いても息苦しいと感じる時があり、社会人になっても忙殺される毎日を過ごしていたという Kiyomi さん。「なぜ自分が生きているのか」を見つけるためにバリ島やハワイに自己探求(ヨガ)の旅へ出て、「全ては自分の心が映し出す鏡」と自分が何者なのかをヨガを通して感じていったのだといいます。

特に、店名の由来にもあるハワイで”天国の海”と呼ばれるラニカイビーチでのビーチヨガは忘れられない体験で、帰国してすぐに開業準備にとりかかることになりましたが、日本でもビーチヨガの担い手は既にたくさんいることや日本の海では一年中天候に恵まれないことに気づいた Kiyomi さんは、ビルの一室に砂を持ち込むヨガスタジオを実現。千葉駅から徒歩 7 分にある”一年中ハワイ”なその空間が、都会での日々に疲れている人たちに、自分の身体と心に向き合う時間と場所をつくりだしています。

Kiyomi さん自身、積極的に海外にも足を運んで、技術向上にも力を注いでいますが、「第二のお家になってもらうこと」が、6 年目を迎えた Beach Yoga Lanikai の何よりの喜び。裏ちば会議[vol.3]では、Beach Yoga Lanikai 代表の Kiyomi さんに自身の体験とスタジオに込めたその想いについてお話をいただきます。

裏ちば会議 vol.3 ゲストスピーカープロフィール



cafe 5
奥居 次郎 氏

革製品に魅力を感じて、高校卒業と同時に弟子入りをし、革職人としての道を進んだ、ジローさんの愛称で親しまれる奥居次郎さん。次々と入ってくるオーダーに応えるため、黙々と作業に自分の世界に没頭する時間も少なくないジローさんですが、これまでまちとの接点も大切にしてきました。

最初に出したお店は地元でもある西千葉に。現在の場所(汐見ヶ丘)に移転してからは、古民家をリノベーションして工房併設のカフェをオープンさせましたが、西千葉時代に作り始めたおいしいマフィン、今でも看板商品の一つです。カフェをきっかけに様々な人との繋がりが増えていったジローさんですが、いつしか絵本カフェを開いて親子連れの居場所を作ったり、街の人たちのチャレンジを応援したり、まちとの関わりを多く持つようになりました。

開業して今年で 25 年を迎えるジローさんが、仲間と密かに企み、スタートさせようとしているのが、裏ちばを盛り上げる、その名も「ニシノマジョ」プロジェクト。「裏ちば(千葉駅西口)の文化的なテイストを取り入れたい」「まちづくりに事業としてコミットしたい」という想いを持ちながら、絵本カフェの各種イベント会場への展開や、千葉駅直結のニシノクチでの月 1 回の Bar、オンラインショップの展開など、目下様々な準備が進められています。

開業してちょうど 25 年。ジローさんの新しいチャレンジが始まります。裏ちば会議[vol.3]では、革職人で、Cafe5・ニシノマジョを主宰する奥居次郎さんに、これまでの道のりと新たなチャレンジについてお話をいただきます。



prove LiFE
大久保 幸希 氏

音楽アートフェス「Nuts Party」をプロデュースしたり、日本最大級のキッチンカー専用プラットフォーム「KITCHENCAR'S JAPAN」を運営したりと、カフェから始まった事業を多角的に展開している prove LiFE。そんな会社で、グラフィックデザイナーの大久保幸希さんが新たな活躍を見せています。

元々は東京生まれ・東京育ちで、デザイン系の会社に就職。その後、ZOZO にデザイナーとして勤めていた時期もある大久保さんは、そのタイミングに千葉に引っ越してきました。紆余曲折を経て、千葉で面白いローカルのことをやっている会社を探して見つけたのが今の会社で、入社して間もなく「大好きなサウナのイベントがやってみたい！」と言って生まれたのが、去年初開催となった「outdoor fes BREMEN」でした。プライベートでは子育て真っ最中でもある大久保さんですが、転職して 2 年目、デザイナーとしてのキャリアと、これまでフェスやマルシェ、アート・ファッションに夢中になってきた人生経験とが重なり、家族や仲間たちと共に新たなステージへと進んでいます。裏ちば会議[vol.3]では、prove LiFE.LCC でデザイナーを務める大久保幸希さんに、これまでのキャリアと夢中になるその世界についてお話をいただきます。